



平成30年2月14日

各 位

会 社 名 トレイダーズホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 金丸 勲
(JASDAQ・コード 8704)
問合せ先 執行役員 財務部長 朝倉 基治
(TEL 03-4330-4700 (代表))

営業外費用の発生並びに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成30年3月期第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日～平成29年12月31日）決算において営業外費用を計上するとともに、平成29年8月10日に公表いたしました平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）について修正することとしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 営業外費用の発生について

持分法による投資損失（連結）

当社持分法適用会社である株式会社ZEデザイン（以下、「ZEデザイン」といいます。）の当第3四半期連結会計期間の当期純損失に出資比率を乗じた17百万円を持分法による投資損失として営業外費用に計上し、当第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年12月31日）の持分法による投資損失は44百万円の計上となりました。

2. 連結業績予想値の修正

平成30年3月期の通期連結業績予想修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	3,150	△840	△1,040	△1,650	△19円27銭
今回修正予想 (B)	2,000	△1,350	△1,580	△2,260	△26円05銭
増減額 (B-A)	△1,150	△510	△540	△610	
増減率 (%)	△36.5	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成29年3月期)	3,004	△1,248	△1,424	△1,433	△18円04銭

<修正の理由>

当第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年12月31日）の業績動向を踏まえるとともに、当社子会社である株式会社ZEエナジー（以下、「ZEエナジー」といいます。）が、第4四半期連結会計期間（平成30年1月1日～平成30年3月31日）に見込んでいた木質バイオマスガス化発電装置の

新規着工2件が翌期への延期が見込まれることから、平成30年3月期通期業績への影響を検証した結果、平成29年8月10日に公表した平成30年3月期の通期連結業績予想(以下、「従来予想」といいます。)と乖離が生じたので、通期連結業績予想値を修正することといたしました。

営業収益は、従来予想3,150百万円から1,150百万円下方修正し、2,000百万円となる見込みです。これは主に、当第3四半期連結累計期間の実績が従来予想を571百万円下回り1,359百万円にとどまったことに加え、第4四半期連結会計期間に着工を見込んでいたZEエナジーの木質バイオマスガス化発電装置の新規案件2件(約620百万円)の工事を当期中に開始することが難しいことから、下方修正したものです。なお、第4四半期連結会計期間における 트레이ダーズ証券株式会社(以下、「トレーダーズ証券」といいます。)のFXトレーディング収益見込みは、平成30年1月に入り外国為替相場が動意づいてきており、同収益に回復の兆しが見えてきていることから従来予想のまま(約600百万円)としております。

当第3四半期連結累計期間の実績が従来予想を下回った主な理由は、当社子会社であるトレーダーズ証券のFXトレーディング収益実績累計が外国為替相場の低調な取引により従来予想を469百万円下回り1,207百万円にとどまったことによります。また、従来予想において当期中の着工を見込んでいた木質バイオマスガス化発電装置の新規2案件の売上約620百万円(いずれも発注者は当社の持分法適用会社であるZEデザイン。)に関しては、電力会社から接続可能の確認は既に得ており、固定価格買取制度利用のための事業者認定を平成29年12月末までに申請する予定でしたが、現在「もがみまち里山発電所」において進めている、継続的な定格出力での発電に向けた追加改良工事が長引いていることから、当期中は同工事を優先し早期の完成引渡しを目指すため、当期での他の新規案件の着工は難しいと判断し、来期の工事開始として計画を見直しております。

営業損失は、従来予想840百万円から510百万円下方修正し、1,350百万円の営業損失となる見込みです。これは主に、当第3四半期連結累計期間の実績が当初業績予想を369百万円下回り1,149百万円となったことに加え、第4四半期連結会計期間に着工を見込んでいた上記の木質バイオマスガス化発電装置等の利益141百万円が減少したことによります。

経常損失は、従来予想1,040百万円から540百万円下方修正し、1,580百万円の経常損失となる見込みです。これは主に、営業損失510百万円の下方向修正に加え、当第3四半期連結累計期間の営業外費用の実績が持分法による投資損失等の増加により従来予想を30百万円上回り178百万円となったことによります。

親会社株主に帰属する当期純損失は、従来予想1,650百万円から610百万円下方修正し、2,260百万円となる見込みです。これは主に、経常損失540百万円の下方向修正に加え、当第3四半期連結累計期間の実績において、従来予想で見込んでいなかった『安曇野バイオマスエネルギーセンター』の木質バイオマスガス化発電装置の売買契約解除の追加費用等46百万円を特別損失として計上したこと及び第4四半期連結会計期間に同解約に伴う貯蔵品として保管している木質バイオマスガス化発電装置の評価損を約20百万円見込んだことによります。

以上

ご注意：本資料に記載しております業績に関する予想値は、いずれも本資料の発表日現在において入手可能な情報による判断及び仮定に基づくものであり、実際の業績は当該予想と異なる場合がありますので、予めご了解ください。